

令和2年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す学校像	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校 ○安心・安全な学校			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<p>【学習指導】</p> <p>分かる授業づくりを推進し、校内研修会・校内授業観察・近隣小中学校の授業視察等を実施したことにより教員の授業に対する意識が向上し、授業改善が図られている。学校で学んだことを卒業後の生活にどのように生かすことができるかを生徒に自覚させることにより、主体的な学びを促し、学習意欲の向上を図る。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>服装や頭髪に関する指導は、減少傾向にあり、各種講演会やスクールカウンセラーの活用等を含めた取り組みにより、落ち着いた生活ができている。服装頭髪指導は職員の共通認識のもと実施する。交通ルール、マナーに関する意識の高揚を図る。スマホ安全教室の全校生徒対象での実施およびトラブルのないネット利用の啓発。</p> <p>【進路指導】</p> <p>生徒の進路希望に応じた進路ガイダンス等の行事・面接・課外指導が実施できた。進路決定率は100%を達成できた。進路情報の生徒へのより迅速な通知と周知徹底と生徒個々に応じたよりきめ細やかな指導を図る。</p> <p>【特別活動】</p> <p>生徒会の活動を中心に学校行事の運営を図ることはできた。部活動への入部者の増加は期待通りにはいかなかった。部活動の活性化については継続的に考えていきたい。</p>	生徒の個人的資質の向上に努める。	挨拶の奨励、遅刻・欠席の防止等、基本的な生活習慣の徹底やコミュニケーション能力の向上 授業・部活・行事など学校教育活動全体を通して生徒の自己肯定感、達成感や学校帰属意識の向上	B	
	専門的知識の育成に努める。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と分かる授業の展開による学力の向上 商業に関する専門的知識の習得と実践的・体験的な学習の充実	B	
	保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。	募集人員の定数確保とキャリア教育充実による進路実現100%	出前授業やHPを活用した教育活動の効果的な情報発信	B
		ボランティア活動や地域でのビジネス活動の充実		
	生徒一人一人の学力や個性を伸ばす学校づくりに努める。	指導方針に関する職員全員の共通理解・実践（同じベクトル）モチベーションの向上	組織マネジメントを推進し、学年会、教科会、運営委員会、職員会議での活発な意見交換による学校経営・業務の改善	B
	安心・安全な学校づくりに努める。		いじめ・体罰・災害等の防止や迅速な対応	A
			HR、授業、二者面談や三者面談を活用しての生徒一人一人に対する丁寧な理解	
		校務の負担軽減と合理化に努める。		負担軽減のために校務の見直し
	校務の合理化			

※ 評価基準 A：非常によく目標を達成できた B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	継続的な理解力や表現力・基礎的な知識等の習得を重視した学習体制を敷く。	授業内容の理解度をノートや課題集の点検を用いて評価する。	A	B	【達成状況】 ○新型コロナウイルス感染予防の観点から、年間を通じたスピーチの授業は行うことができなかったが、生徒の作成した詩歌が、各種文学賞等に入選した。また、学習課題集やノートを定期的に確認・評価することで、生徒の授業の理解度を図ることができた。
			長期休業中においても自主的に国語力を伸長する機会を設ける。	B		
		場に応じた適切な表現の体験を通して、自己を見つめようとする意欲の向上を図る。	スピーチや意見を検討する機会を設けて、自分の考えを構築し、発表する機会を設ける。	B		
			俳句や短歌の創作等、詠む行為によって、自分の心と向き合う機会を設ける。	A		
	漢字検定を積極的に受検させ、将来の進路に活かす。	課外や課題プリント配布などにより、効率的な学習のサポートを行う。	B			
	社会	時事的な話題等を積極的に授業に盛り込み、授業への興味・関心を高める。	視聴覚教材や新聞、インターネット等の資料を効果的に活用する。	B	B	【達成状況】 実生活とリンクする資料を活用し、生徒の興味・関心を惹くような授業展開ができた。また、授業内容の確認プリントを活用したり、ノート点検をこまめに実施して、授業への集中・基礎学力の定着をはかるよう努めることができた。
			発問を工夫し対話型の授業展開を心がけ、生徒への授業の参加を促す。	B		
		教科の基礎学力の定着を図る。	授業内容の確認プリントやノートの指導（点検）等、きめ細かい指導を行い、基礎・基本の習得に努める。	A		
	数学	教科書の内容に基づく基礎学力の定着を図り、発展的な事象も取り扱う。	多くの例題を通し、基礎基本及び発展的学習において体験的に理解できるように工夫する。	B	B	【達成状況】 ○確認プリントを活用し、その都度復習することができた。 ○机間指導を十分に行い、苦手な生徒への指導を個別に行うことができた。 ○基本事項の復習から、生徒の興味・関心を惹くような授業展開を心がけた。 ○生徒が質問に答え、黒板に板書するなど生徒主体の授業をすることができた。
			生徒とのコミュニケーションを図り、苦手な生徒には個別に対応する。	B		
		基礎的な計算力を身に付けさせる。	課題や授業中の問題演習を通して、計算させる機会を増やす。	B		
	理科	基礎的な学力の向上を図る。	生徒と教員、生徒どうしのコミュニケーションを重視した授業を行い、必要に応じて課外等のサポートを実施する。	B	B	【達成状況】 ○基本事項の復習から、生徒の興味・関心を惹くような授業展開を心がけた。 ○実験・実習・モニター視聴等を取り入れた授業展開を行い、反転学習・発展学習等に生かすことができた。 ○生徒が質問に答え、黒板に板書するなど生徒主体の授業をすることができた。
科学に対する興味・関心を高め、科学的思考力を身につける。		日常生活にあふれる理科現象や身近な物質を取りあげ、科学全般に対して関心を持たせる授業展開に努める。	B			
物理実験室・化学実験室の整備と授業での活用を高める。		計画的に実験室の備品等の整備を進め、実験室等の活用を活発化して、実験・実習・モニター視聴等の授業を取り入れる。	B			

※ 評価基準 A：非常によく目標を達成できた B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科	体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体づくり運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。	C	<p>【達成状況】</p> <p>体育</p> <p>○体力テストA及びBの割合は44.9%と目標の50%を達成することができなかった。</p> <p>○卒業課題については種目を選定し補習等を行い、目標を概ね達成することができた。</p> <p>○実技研修として指導の仕方など適宜話し合いや共通理解を図った。</p> <p>保健</p> <p>○各授業において身近なニュースを取り上げながら授業展開を図った。</p> <p>【次年度の課題】</p> <p>○体育の授業で、新型コロナウイルス感染症に注意しながら生徒の体力維持、向上ができる授業を展開していきたい。</p>
		できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率80%以上を目指す。	B	
		体育的・学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	授業においてクラスマッチ種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。	C	
		よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。	A	
	保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。	A	
	英語	基礎学力の向上に努める。	単元ごとに確認テスト・小テストを実施し、知識の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。	B	
			課題や学習ノート提出により、きめ細かく、継続的に理解不足の生徒に対して指導する。	B	
		資格取得のための指導に努める。	全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように合格対策課外等を実施する。	B	
		実践的コミュニケーション能力の向上に努める。	ALTとのTTなどを存分に活用し、コミュニケーションに必要なリスニング・スピーキング能力を高める。	B	
	ペアワーク・グループワークを取り入れ、他者とのやりとりを通じて考えを深めて、コミュニケーションを積極的にしようとする態度を育成する。		C		
	家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。	実験・実習を取り入れ、具体的でわかりやすい授業を展開する。	B	
			プリント・学習ノートの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。	B	
			実習を通して、強い精神力や協調性、自主・自立の精神を育成する。	C	
		家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。	A	
	商業	学力・指導力の向上を図る。	学力・指導力向上のために日々の授業を大切に、学習意欲の喚起と検定試験等の合格率を高める。	B	
			科目ごとに授業研究を行い、工夫改善をして授業の指導力向上に努める。	B	
商業教育の広報活動に努める。		地域と連携した商業教育の推進や商業教育の理解をさらに深めるために、体験入学や出前授業の内容を工夫して実施する。	B		
ビジネスにおける実践力の育成を図る。		総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。	B		

※ 評価基準 A：非常によく目標を達成できた B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
校務分掌	教務	教員の指導力および生徒の学力向上を図る。	授業の工夫改善をし、主体的・対話的で自ら考え、学ぶことによる分かる授業を行う。	B	【達成状況】 ○新型コロナウイルス感染症による臨時休業や行事の変更に対応できた。 ○令和4年度入学生の教育課程を作成した。 【次年度への課題】 ○コロナ禍における状況変化に対応できる体制づくり ○ICT端末導入による授業展開の構築と指導力向上のための研修 ○内規の見直し
			教員の指導力向上のために、授業の相互参観期間を設け、校内外研修の機会を活用する。	A	
		教育課程の編成に努める。	生徒たちの資質・能力を引き出し、社会の要請に応えられる人材の育成に繋がる教育課程を編成する。平成4年度入学生の教育課程の編成に努める。	B	
		学習意欲の低い生徒への指導を充実させ、学業不振の転退学者の減少に努める。	成績不振者に対する日頃からのきめ細やかな指導と補習や課外を計画的に行う。	B	
		内規の検討を行う。	本校の現状をふまえ、内規の問題点を話し合い、必要に応じて見直す。	C	
		授業時間の確保に努める。	休業中の授業時間の確保	A	
		情報の保護・管理に努める。	手引きに沿った個人情報の保護を適正に管理する。	A	
		HPの適正な運営と教育活動の公表に努める。	ガイドラインの作成とそれに沿った活動を活性化させ、迅速な情報の公開を心がける。	A	
	生徒指導	生徒全員に朝の挨拶をさせる	登校指導における挨拶、廊下での挨拶をしていく。	B	【次年度への課題】 ○頭髪やスカート丈等、教員の共通理解をもち、学校全体で指導していく。年間の温度差を感じるため、改善したい。 ○スカートの短い（折っていない場合も）生徒の対応を全学年統一で行いたい。 ○ネットモラルに関する指導に力を入れる。 ○改正した内規の定着をはかる。
		服装・頭髪等について校則を守らせる	登校指導、授業、休み時間等において、違反を見逃さず、全職員で呼びかけていく。	B	
		遅刻者数を大幅に減らす	8時35分過ぎに昇降口と教室でダブルチェックをして遅刻の取り扱いを統一する。昇降口で声掛けをして教室に早めに着くよう促す。	B	
		交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ	校外立哨指導を実施したり、普段からHR等で注意を呼びかけてもらう。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会等を実施する。	B	
		問題行動を未然に防ぐ	立哨指導や昼休みの校内巡回で生徒の動向を把握したり、服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。また、自転車の盗難防止のための鍵かけを促す。	B	
		教育相談活動の充実	教師の指導に加えて、スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリング、保護者への指導・助言等により、教育相談体制の一層の充実を図る。	B	
	特別活動	生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。	B	【達成状況】 ○新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな行事が予定通り実施できない状況ではあったが、臨機応変に対応することができた。部活動も大会が実施できない中で、それぞれが工夫しながら活動することができた。 【次年度への課題】 ○次年度についても今年度同様、状況に応じて対応するとともに、その中で今年度より行事が円滑に実施できるよう部内での共通理解を図る。 ○学校行事・HRの活動を通してキャリアパスポートへの取り組みを推進する。
		部活動加入率50%を目標とし、年間を通してのその維持に努める。	各部活動の入部者を増やし、意欲的な取り組みを促す。	B	
			部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。	B	
		体育的行事、文化祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	委員会の生徒を中心とした活動を活性化させることで、学校行事の充実を図る。	B	
		活動を通してキャリアパスポートを推進する。	多くの行事を通して、自ら計画・振り返りをしながら主体的な活動ができる力を育む。	B	

※ 評価基準 A：非常によく目標を達成できた B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
校務分掌	進路指導	進路ガイダンスの内容や時期を見直し、年次に応じた適切なガイダンスの実施に努める。	B	【達成状況】 ○新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったガイダンスもあったが、各学年に相応しい企画・立案、実施ができた。 ○インターンシップは実施できなかったが、会社見学には就職希望者をほぼ全員行かせることができた。 ○特に3学年で「進路の手引き」を有効に活用することができた。 ○企業や学校との情報交換会がことごとく中止になるなか、近隣学校の先生方と可能な限り情報交換に努めた ○資料室を整備し、必要な資料を迅速に探せるようにした。 【次年度への課題】 ○オンラインによる見学・説明会や試験に対応できる環境整備、及び職員のスキルアップ。 ○面接指導のさらなる充実。 ○来客対応の効率化を図る。 ○共有データの整理を定期的に行う。 ○1・2学年においては「進路の手引き」を今後一層活用できるようにする。	
		進路について理解を深め、個々の能力・適性に合った進路決定をさせる。	B		
		インターンシップや会社見学、各学校のオープンキャンパスへの参加を促し、入社・入学後のミスマッチが起こらないように努める。	B		
		「進路の手引き」を発行し、希望進路の実現に活用させる。	B		
		進路に関する情報提供を充実する。	B		
	進路資料室の効果的な活用を目指す。	生徒・教員・保護者などが資料を閲覧しやすいように、情報提供の仕方を工夫し、レイアウトや資料の整理などに努める。	B		
	環境整備	清潔な環境を目指す姿勢を育てる。	教室等のワックス塗布やモップの交換を通して、生徒の美化意識の向上に努める。	B	【達成状況】 ○ワックス塗布やモップ交換では、年3回の交換であったが係の生徒が意欲的に動いてくれたので効率よく交換ができた。 ○校内美化については、新型コロナウイルス感染症の除菌対策が新たに入り当初次亜塩素酸ナトリウムでの除菌から、除菌用アルコールを使用しての感染予防をしてきた。各職員に徹底することができた。 ○校外清掃では全員が精力的にゴミ拾いに参加した。 【次年度の課題】 ○学校再開の遅れなどにより清掃用具の調査とりまとめが遅くなってしまった。次年度は速やかな調査と配給を目指したい。 ○感染予防対策をさらに充実する。
			効率よく環境整備をするためのアイデアを出し合い、創意工夫の能力の育成に努める。	B	
			清掃道具を速やかに補充し、生徒自らが意欲的に校内美化に取り組む環境を整える。	B	
		環境美化を主体的に実践しようという意欲を育てる。	より清潔できれいな学校にするための中・長期的な計画を、生徒ともに模索する。	B	
	保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	保健室の効果的な運営に努める。	B	【達成状況】 ○国、県からの新型コロナウイルス感染予防対策指示について迅速に対応した。また、学校ガイドラインを作成し、感染症対策の徹底を図った。 ○各種健康診断、各種環境検査等、日程を変更して実施できた。（臨時休業中） ○外部講師を招いた性教育講演会（10月）を実施した。 ○防災避難訓練を計画していたが、直前に新型コロナウイルス感染拡大のため、中止とした。 ○保健室運営については、来室生徒の状態を把握し処置する等、十分に対応出来た。エアコン・ストーブ・カーテンの管理、購買、出欠報告など滞りなく実施できた。 【次年度への課題】 ○新型コロナウイルス感染予防対策の徹底と、学校でPCR検査を行う場合のスムーズな対応。 ○学校危機管理マニュアルの見直し。 ○保健室利用カードの徹底。
			諸検診の効果的な実施に努める。	A	
			専門家による性教育を実施する。	A	
		学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。	C	
		学習環境を整備する。	エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。	B	
	水質検査および室内環境検査等を実施する。	B			

※ 評価基準 A：非常によく目標を達成できた B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題		
校務分掌	図書	生徒の読書センターや情報センターとして図書室環境を整備し、学習活動及び各種活動を支援したり、情報収集・選択・活用能力を育成する。	わかりやすい蔵書の配置・親しみやすく内容が充実した装飾にも努め、図書室を利用しやすい環境に努める。	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○蔵書の配置・館内の装飾に力を入れ、図書館を利用しやすい環境作りに努め、利用者も増えた。 ○コロナ禍のため図書室でのオリエンテーションが十分に実施できないクラスがあった。 ○リクエストボックスを通しての購入希望も増え、希望に沿った本の購入に努めた結果、貸出冊数の増加が見られた。 ○購入する本の選書基準及び蔵書の廃棄規準を改正した。 ○夏季休業中に図書委員研修会を実施した。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○より多くの生徒に読書の魅力を知ってもらい、貸出冊数を増やす具体的な方法を一層充実させる。 	
			図書館資料を整理し、蔵書のデータベース化を図り、貸出し返却手続等を迅速に行えるよう努める。	B		
			1年生全員に図書室利用のオリエンテーションを実施する。	B		
			読書指導と読書の推進を図り、主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努める。	新刊本の表紙をカラーコピーし、教室・廊下等に掲示し、資料の提供を行う。		B
			生徒・教職員に対して、リクエストボックスをとおして購入希望図書を募り、随時購入希望を受け付ける。	A		
			生徒発行の「図書室だより」を年間3回以上発行して新着図書案内を行い、読書に対する関心を高める。	B		
		図書委員の自主的・主体的な活動が活発になるよう促す。	図書室内の装飾・蔵書点検・環境整備・リクエストボックスの回収等における図書委員活動の主体性を図る。	B		
	渉外	PTA総会・各種行事、会合への保護者の参加率を高め、学校・家庭との連携を密にする。	PTA総会をはじめ各行事への参加率を高めるための工夫・改善をする。	B		<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の影響で、PTA総会をはじめさまざまな行事・研修会・会合が中止になり予定通りの活動ができなかった。 ○学校行事の多くが中止になる中、生徒・保護者等の協力により、PTA広報誌「鬼怒」を発行することができた。 ○同窓会を中心に50周年記念事業の準備を進めた。 ○スクールバスの安心・安全な運行を継続することができた。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○PTA総会をはじめ、PTA行事への参加率の向上を図る。 ○PTA会員相互の親睦を深め、相互協力体制を強化する。 ○役員会等で今後の課題・展望について意見を集約し、PTA活動の活性化を図る。 ○スクールバスの安心安全な運行を継続できるよう取り組む。
			学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙「鬼怒」の充実を図り、保護者の学校理解を深める。	B		
			会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。	C		
			鬼朋祭やさわやかマナーアップ運動等の学校行事への保護者の積極的な参加を促す。	C		
			PTA支部研修会を実施し、保護者・職員の情報交換を行い、協力体制を確立する。	B		
50周年記念事業に向けて、同窓会の組織・強化に努める。		同窓会役員との連絡を密にして、組織の活性化、強化に努め、記念事業の準備を進める。	B			
	スクールバスの安心・安全な運行を継続する。	スクールバス運行委員会において、問題点を把握し、安心安全に通学できるようにする。	B			

※ 評価基準 A：非常によく目標を達成できた B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
学 年	一 学 年	挨拶の励行と礼節をわきまえた行動を意識させる。	SHRや授業において、正しい挨拶・服装の指導をこまめにおこない、生徒に定着させる。	B	B	<p>【達成状況】</p> <p>基本的な生活習慣を概ね身に付けさせることができた。道徳や進路に関する学年行事については、感染症対策を第一に考えた結果、ほとんど実施することができなかった。</p> <p>【次年度への課題】</p> <p>社会人となるためのマナーについて考えさせることを意識した指導を行う。そのために道徳心を養い、また様々な方法でキャリア教育につながるような行事を計画・実施し、今年度達成できなかった、集団の中における個々の在り方について考えさせる機会を増やす。（すべての行事において、感染症対策を最優先に計画をする。）</p> <p>さらには、修学旅行を実り多い行事にするため、生徒が主体的に学習できるような運営をおこなう。</p> <p>人間関係に顕く生徒の早期発見及び保護者との連携による心のケアに努め、また、ネットモラル教育やコミュニケーション力の育成をおこない、トラブルの未然防止に努める。</p>
		欠席・遅刻・早退を増やさず、時間厳守の意識を持たせる。	遅刻・欠席・早退の問題点と時間を守ることの重要性について、意識させる指導をおこなう。また、生徒が意欲的に通学できる環境を整える。	B		
		鬼怒商業の生徒である自覚と責任をもち、規範意識を高める。	本校のルールをしっかりと理解させ、服装・頭髮及びスマートフォン使用に関するマナー指導も徹底し、規範意識の向上に努める。	A		
		授業・学校行事の大切さを理解させる	適切な態度で授業を受け、基礎学力を定着させることが学ぶ喜びにつながるように指導をおこなう。学校行事や資格取得に積極的に取り組むことで、将来に向けての可能性が開けることを進路ガイダンス等で指導する。	B		
		進路についての意識を高めさせる。	適切な内容で進路ガイダンスを実施し、将来を見据えた計画性のある学習活動ができる環境を整える。	C		
	二 学 年	挨拶や他人を思いやる気持ちを持って職員や生徒同士と接し、コミュニケーション能力を高める。	人間関係の第一歩は挨拶。気持ちのいい挨拶を習慣化し、かつ相手の気持ちを考えて、積極的に会話を交わすことで、コミュニケーション能力を高めていく。	B	B	<p>【達成状況】</p> <p>学年全体としては、集団生活のルールや提出期限等の約束事を概ね遵守できており、1学年次に比べると落ち着いた生活態度になったと感じている。修学旅行をはじめとする様々な行事が実施できない中で、進路行事は感染対策をとりながら計画通り実施できたこと、資格取得である程度の結果を残せたことは評価してよいのではないと思う。</p> <p>【次年度への課題】</p> <p>最高学年の自覚をもった自発的な行動がとれるように指導する。延期で計画を進めている修学旅行をコロナ禍の中でも成功させられるように、日頃の集団生活の中から、周囲を気遣い、責任感のある態度となるように指導していきたい。そして、そのような意識から、すべての生徒の進路実現につなげていきたいと考えている。</p>
		集団生活の中で、時間や提出期限等の約束及びルールを守る。	時間や約束を守るということは、社会人としての最低限度の必須項目である。その必須項目を実践させることによって、ルールやマナーを遵守できる信頼される人物を育成する。	B		
		学校行事に積極的に参加する。特に、修学旅行を有意義なものにする。	集団生活の中ではなぜルールやマナーがあるのか、その意味を理解して行動させる。他人に迷惑をかけない。	C		
		商業高校の特色を生かした授業を実践し、資格取得に向けて意欲的な学習をする。	普通科では学ぶことのできない専門科目の知識を深め、資格取得等で結果を残すことによって生徒に自己肯定感を高めさせる。	B		
		生徒が自分の適性を把握し、その適性に合った進路を実現できるように計画的な準備を進める。	自分の適性を理解し、その上で卒業後の進路が自己実現できるよう適切な進路ガイダンスや、進路指導計画を実践する。	A		
	三 学 年	社会人となることを念頭においた時間厳守の定着	社会人として時間を守れない人物は信用されない事を意識させ、登校時間や移動教室、集会などあらゆる場面において決められた時間厳守を徹底する。	B	B	<p>【達成状況】</p> <p>移動教室や集会などの集合時間は概ね守られていた。SNSによる情報発信の仕方や社会規範に対する意識付けは新型コロナウイルス感染症の影響による指導不足とも重なり、今後は一層の充実を図る必要がある。また相手の立場を考えたコミュニケーションの重要性については3年間継続して指導し一定の成果は上がったと思われる。</p> <p>進路の自己実現に関しては、学校全体で、きめ細やかな面接指導をした結果、ほぼ全ての生徒が高校卒業後の進路を決定することができた。</p> <p>情報ビジネス科における高度資格取得については、30名を超える生徒が全商検定1級3種目合格を達成し、更なる高度資格の取得に取り組んでおり、成果を挙げている。また、資格取得以外のビジネスに関する学習も「とうむぎあいす」販売を通して深い学びを達成した。</p>
		社会規範や校則の遵守	社会人としてコンプライアンス（法令遵守）は大切であり、それを踏まえて社会規範や校則などを遵守する意識を高める。	C		
		コミュニケーション能力の更なる向上	進路面接を意識したあいさつや言葉遣いのみならず、商業高校で学んだ生徒としてビジネスコミュニケーション能力を身につける。	B		
		生徒の進路自己実現を支援	生徒全員が高校卒業後の進路を決定できるよう、適切な進路行事を計画・立案・実行し、生徒の進路決定を学年職員全員で支援する。	B		
		情報ビジネス科における高度資格取得の実現	高度資格（全商簿記1級、ITパスポート等）の20名以上の合格者数を目指し、進路につなげる。	A		

※ 評価基準 A：非常によく目標を達成できた B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分